

| 科目名 Course Name | | 開講年次 | 開講学期 | 曜日・時限 |
|--|--------------------------------|----------------|-------------|--------------|
| 保育相談支援 Social support of childcare | | 2年 | 後期 | 別途、時間割参照 |
| 単位数 | 授業の形態 | 授業の性格 | | 履修上の制限 |
| 1単位 | 演習 | 選択 | (保育士養成課程必修) | 児童フィールドのみ |
| 当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目 | | | | |
| 相談援助 | | | | |
| 同時に履修しておくことが望まれる科目 | | | | |
| 保育士養成課程必修 | | | | |
| 担当者に関する情報 | | | | |
| 氏名 | 研究室の場所 | オフィスアワー | | 電話番号・メールアドレス |
| 小竹利夫 | 講義棟2階 | 月・火・水・木の8時～18時 | | 授業中に指示します |
| 授業の概要 | | | | |
| 保育相談支援の概要及び方法を理解し、保護者からの様々な保育相談への対応を考える。 | | | | |
| 授業の目標 | | | | |
| ①保育相談支援の意義と原則について理解できるようにする。 ②保護者支援の基本を理解できるようにする。 ③保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解できるようにする。 ④保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解できるようにする。 | | | | |
| 授業の方法 | | | | |
| 保育相談支援が必要な様々な事例を紹介し、その背景を理解するとともに支援方法を探り、毎回小レポートにまとめる。 | | | | |
| 学習の成果（学習成果） | | | | |
| ①子どもや保護者の気持ちを聴くことができる。 ②子育て上の様々な悩みを理解し、支援方法を見つけることができる。 ③実際に子育て上の悩みに対する支援の仕方を考え、実行する態度を身に付けることができる。 | | | | |
| 授業のスケジュールと内容 | | | | |
| 第1回目 | ガイダンス。(授業の内容・進め方・評価の方法) | | | |
| 第2回目 | 保護者に対する保育相談支援の実際。(ことばの発達) | | | |
| 第3回目 | 保育の特性と保育士の専門性を生かした支援。 | | | |
| 第4回目 | 子どもの最善の利益と福祉の重視。 | | | |
| 第5回目 | 子どもの成長の喜びの共有(ほめ方等)。 | | | |
| 第6回目 | 保護者の養育力の向上に資する支援。(ペアレントトレーニング) | | | |

| | | |
|----------------|----------------------------------|---|
| 第7回目 | 信頼関係を基本とした受容的かかわり、自己決定の尊重。（津守理論） | |
| 第8回目 | 地域の資源の活用と関係機関との連携・協力。 | |
| 第9回目 | 保護者の養育力の向上に資する支援。（インリアルアプローチ） | |
| 第10回目 | 保護者に対する保育相談支援の実際。 | |
| 第11回目 | 保護者支援の方法と技術。（傾聴） | |
| 第12回目 | 保育所における保育相談支援の実際。（就学相談等） | |
| 第13回目 | 保育所における特別な対応を要する家庭への支援。 | |
| 第14回目 | 児童養護施設等要保護児童の家庭に対する支援。 | |
| 第15回目 | 障害児施設、母子生活支援施設等における保育相談支援。 | |
| | | |
| 成績評価の方法と基準 | | |
| 評価の領域 | 割合 | 評価の基準 |
| 授業参加態度 | 30% | 授業を集中して聞き、質問に対して積極的に答える。必要なことはきちんとノートに取る。 |
| レポート | 70% | 授業の中でレポートを書く。授業の内容を理解した上で、自分の考えを展開することが求められる。1回5点満点で計14回。 |
| 調査報告書 | | |
| 小テスト | | |
| 試験 | | |
| 発表内容（態度含む） | | |
| その他 | | |
| 教科書と参考図書 | | |
| 授業内で適宜資料を配布する。 | | |
| 履修上の留意点・ルール | | |
| 私語禁止。飲食禁止。 | | |